

HAPPY ISLAND, HAPPY HEALTHCARE.

看護師
募集案内

しあわせを支え続ける「離島看護」。





しあわせを支え続ける「離島看護」。

島の人々も、支えるあなた自身も種子島でしあわせになろう

「ありがとう」と、面と向かって言ってもらえる仕事はそう多くはありません。看護師は、患者さんやご家族から「ありがとう」と言っただけの仕事です。そのひと言は、励みとなり、支えとなり、生涯を通して誇りになります。

生まれてくる命を迎え、終えていく命を見送る。看護師は、その瞬間に立ち会わせていただき、人生に関わらせていただく仕事です。それだけに責任の重さに押しつぶされそうになることもあります。それでも、それ以上に人として成長でき、自分を誇らしく感じられる仕事です。

離島看護に必要なのは、島の看護を支えるのは私たちである、という使命感。そして、島民の皆さんのしあわせを支え、自分たちもしあわせになる、という決意。

この仕事を選んだみなさんを、心から誇りに思うとともに離島看護に興味を持ち、一緒に支えていただけたらと心から願っています。

看護部長 戸川 英子



「どのような看護師になりたいですか？」

そう問われることが多いでしょう。

でも、私たちがまず問いかけるのは、

「どのような人生を送りたいですか？」という言葉です。

幅広い看護力と人間力を身に付け、魅力的な人になりたい。

看護のスペシャリストになって広い世界で活躍したい。

仕事も趣味もバランスよく人生を楽しみたい。

看護師としても家庭人としても、充実した人生を送りたい。

あなたが思い描くのは、どのような人生ですか？

なぜなら、看護師の道を選んだ者にとって、その人生こそ理想の看護師になるための条件だからです。

私たちが日々心掛けているのは、患者さんを笑顔にする看護。

それには看護師自身がしあわせであり、

笑顔でいなければいけません。

「しあわせ」は人によってさまざまです。

その価値観もまた、人生とともに変わっていくでしょう。

それでも、しあわせを実感しながら看護すれば

患者さんを笑顔にすることができます。

“しあわせの島、しあわせの医療。”をスローガンに掲げる種子島医療センターが目指す

“しあわせを支え続ける離島看護”とは

患者さん、そして私たちみんなの

「クオリティ・オブ・ライフ」を支えること。

そのための環境を用意して、お待ちしております。

種子島で豊かに働く、暮らす

離島医療を支える、看護師のライフスタイル

種子島医療センターで働くスタッフの半分以上は、島外の出身者。専門性を持つ多職種のスタッフが、離島医療のために、出身地も職種の垣根もなくワンチームとなって働いています。看護師たちもまた、種子島で働く理由はさまざま。それでも、互いの思いや立場を尊重しながら笑顔で働き、自分らしく暮らす、「ワーク・ライフ・バランス」のとれた看護師たちの姿がここにはあります。生きる喜びを実感できる“しあわせの島”で、私たちと一緒に充実した人生を手に入れませんか？

ここには、仕事も趣味も子育ても両立できる環境があります。



荒木 舞(妻) / 山形県出身 パート勤務 2014年入職

夫についてきて2、3年のつもりが居心地がよく、当センターに看護師として勤めながら3人の子どもに恵まれ、現在はパートで勤務しています。それまでは訪問看護や病棟に配属され、外来から在宅までひと通り携わらせていただきました。おかげで看護師としての幅広い経験を積めただけでなく、各部署や地域との連携のよさも実感し、ここならずっと安心して暮らせる自分自身も感じています。また、個々の事情に応じた働き方をサポート

してくれるのもありがたく、子どもたちはみんな種子島で出産し、2人目と3人目の時は夫も3ヶ月の育児休暇をとらせてもらいました。24時間対応の院内保育所もあり、子育てをしながら働けるので助かっています。種子島の気質でしょうか、みなさん穏やかで、先輩方はどんなに忙しくても丁寧にご教えてくださいますし、患者さんも私を見かけると優しく声をかけてくださいます。私たちも子どもたちも、人に優しくなれるこの島が大好きです。

荒木 敦(夫) / 山形県出身 外来勤務(第一種消化器内視鏡技師) 2008年入職

看護学生の時、「種子島の病院で働いてみませんか？」という記事を見て種子島まで見学に行き、初任給も聞かずに働くことを決めてすでに10年以上になります。出身の山形は「波乗り発祥の地」といわれていて、サーフィンが生活の一部になっている私にとって、人もよく気候もよく波もいい種子島は、暮らすには最高の場所です。田上寛容理事長を始めサーフィン仲間も多く、仕事前にサーフィンに行ったり、部

署や職業が違っても何かあればすぐに集まったり、おかげで仕事も円滑にできています。ロケットの打ち上げや鉄砲祭り、「ジロ・デ・種子島」といった世界的なスポーツ大会まで、イベントが多いのも種子島で暮らす楽しみのひとつです。どんなに仕事が大変でも自然と優しくなれる住み心地のよさも、家族がしあわせになれる場所だと夫婦で実感しています。それがここから離れられない理由だと思います。

病院周辺の環境

西之表市にある種子島医療センターは、種子島港(西之表港)から車で5分、種子島空港からは車で30分のところにあります。病院周辺には、小学校、中学校、図書館といった教育施設、市役所や銀行などの公共施設、文化施設、公園があり、文化エリアに位置します。スーパーやコンビニ、ドラッグストアなどの買い物環境も整い、ほとんどが車で10分以内のエリアに揃う便利な環境です。



行などの公共施設、文化施設、公園があり、文化エリアに位置します。スーパーやコンビニ、ドラッグストアなどの買い物環境も整い、ほとんどが車で10分以内のエリアに揃う便利な環境です。

病院へのアクセス

〈飛行機〉

- 鹿兒島空港から種子島空港まで飛行機で約40分
- 種子島空港から病院まで車で30分


〈高速船〉

- 鹿兒島港(南埠頭)から種子島港(西之表港)まで高速船で約1時間35分
- 種子島港から病院まで車で5分

〈公共バスご利用降車バス停〉

- 種子島・屋久島交通、大和交通
- ▼
空港線「松島バス停」下車、徒歩約1分





種子島で豊かに働く、暮らす
新人看護師の一日

ON

しあわせの医療は、スタッフがしあわせに働き、暮らしてこそ提供することができます。種子島医療センターでは、ライフステージに合わせた働き方を選べるなどワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい体制を整え、スタッフのやる気としあわせな暮らしをサポート。種子島の暮らしを満喫する新人看護師のライフスタイルをご紹介します。

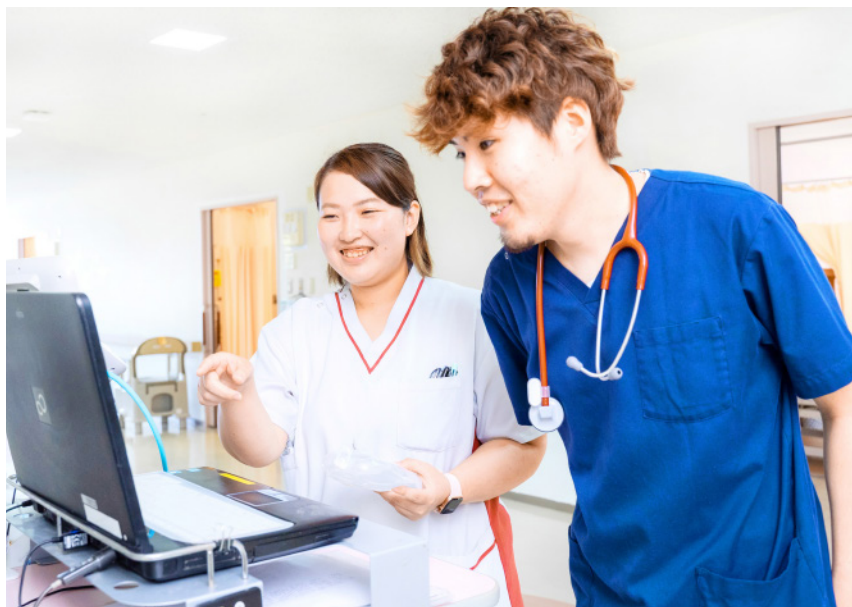


長澤 凜太郎 / 大分県出身
2021年入職 急性期一般病棟勤務

入職のきっかけは、小さい頃にとってもお世話になった医師が種子島医療センターにいらっしゃると知ったことでした。先生のように患者さんや家族を支えられる存在になりたい、看護師としても人としても成長したいと考え、種子島で働くことを決めました。不安もありましたが、みなさん心温かく、家族のように密にコミュニケーションをとりながら離島医療を学ぶことに魅力を感じています。急性期病棟では、子どもから高齢者まで幅広い患者さんの状態を瞬時に判断し、適正なケアを行う対応力が必要ですが、タイムリーに研修が組まれるなど教育体制が充実し、先輩方が手厚くサポートしてくださるので、日々、看護師として成長できていると思います。

1日の勤務スケジュール

6:45	起床・朝食	8:30	申し送り	10:00	記録入力	13:00	昼食休憩	16:45	ラウンド	20:30	リラックスタイム
7:30	通勤	8:45	ラウンド	11:30	血糖測定・食前体位変換	14:00	環境整備	17:00	退勤・帰宅	23:30	就寝
7:45	出勤・情報収集	9:00	点滴準備・環境整備	12:00	配膳・食事介助	15:00	臨検・記録入力	18:00	夕食		
8:20	内服セット	9:30	点滴投与・検温・処置	12:30	口腔ケア・下膳	16:30	申し送り	19:00	予習・復習		



勤務体制

- 入院料：急性期一般病棟入院料4、回復期リハビリテーション病棟入院料1、地域包括ケア病棟入院料1
- 看護方式：固定チームナーシング、プライマリーナーシング
- 看護職員数：178名（看護助手、クラーク、非常勤含む）2022年度現在
- 勤務体制：各部門により、多様な勤務帯を導入
例：病棟勤務
- 2交代制：[日勤]8時30分～17時00分 [夜勤]16時30分～8時45分
※[早番]6時30分～15時00分、[遅番]13時00分～21時15分
休日制度：週休2日制

看護業務に専念できるサポート体制

看護業務サポート

看護師が患者さんに向き合い看護業務に専念できるよう、外来ではドクターズクラーク（医師事務作業補助者）が医師について事務業務を行う他、病棟では複数名の看護助手を配置し、環境整備、備品整理、食事補助などをサポートしています。

メンタルサポート

仕事の悩みや精神的な疲れといったストレスは、自分の力だけでは取り除けません。担当医師や産業保健師によるメンタルチェックのほか、師長等が定期的に面談しメンタルをサポートしています。

最新機器やシステムの導入

バイタルチェックはスポットチェックモニタを使い、すべての看護データは電子カルテで管理。入力ミスや手間を軽減し、業務の効率化、院内の情報共有が行えるよう最新機器を取り入れています。

種子島で豊かに働く、暮らす

新人看護師の一日

OFF



大自然の中でマリンスポーツやアウトドアを楽しめるだけでなく、おしゃれなカフェやレストランもある種子島は、暮らすにも魅力的なところ。自分らしいライフスタイルを求めて、他県から移住してきたスタッフもたくさんいます。テニスやサーフィンなどの院内外のサークル活動も活発で、オフはバレーボールチームの練習や趣味の釣りに出かけたり、スニーカーが大好きで、高速船で1時間半かけ鹿児島市まで日帰りでショッピングに出かけたり、自分の時間を楽しんでいます。島外出身者もゆっくり帰省できるように、休暇を調整してくれますし、職員宿舎も充実しているので、初めての一人暮らしですが、ワーク・ライフ・バランスを守りながら快適に過ごしています。

種子島ってどんな島？

What's
TANEGASHIMA
ISLAND?

暮らしをサポート

福利厚生を完備し、安心して働ける環境を整えています。

勤務体制

遠方から入職したスタッフが職場や環境に慣れるまで安心して暮らせるよう、病院近辺にアパート・マンションタイプの職員宿舎(3か所に4棟)を用意しています。



2021年に完成した新職員宿舎。2Kと1Kタイプがあり、テレビ、冷蔵庫、電子レンジ、ベッドなどの家具家電、シャワー付きの洗面化粧台、クローゼット、Wi-Fi、宅配ボックス、防犯カメラを設置。ホームページでは動画で紹介しています。

院内・院外サークル

部署を越えた交流も盛んで、サーフィン部や釣り部など、医師と医療スタッフが一緒にサークル活動を行うほか、ゴルフコンペや院外サークルも充実しています。



子育て支援

子どもが1歳に達するまで育児休業を取れる他、育児後は24時間対応の院内保育所に預けることができ、院内には小児外来も受診できるので、仕事をしながら子育てができます。



院内保育所では、0歳から小学校就学前までの乳幼児を対象に、24時間対応しています。病院から徒歩2分のところにあるので、授乳や急な発熱などの場合もすぐに駆け付けられることができますので安心です。

休暇・休業制度、その他

- 休暇制度:年間休日数105日(有給休暇、リフレッシュ休暇含む)
有給休暇10日(6ヶ月経過後、お盆休み2日、年末年始4日)、リフレッシュ休暇(毎年3日間)、慶忌休暇、育児休業(子どもが1歳に達する日まで)、介護休業(通算93日間)
- 加入保険:健康保険・厚生年金・労災保険・雇用保険・病院企業年金
- 施設:職員宿舎(4棟)、レストラン、院内保育所
- 退職金制度:勤続3年以上 当院規定による

手当も充実

職務手当、看護職員処遇改善手当、資格手当、準夜手当、深夜手当、夜勤手当、早出勤務、遅出勤務、通勤手当、住宅手当、赴任手当、扶養手当など、諸手当が充実しています。

食料自給率100%の豊かな島



鹿児島市から南へ約115 kmの海上にあり、南北に細長く、海拔最高282.3mのなだらかな地形の種子島は、年間の平均気温19℃と温暖な気候、豊かな漁場に恵まれることから農業や漁業が盛んです。米や地野菜や果物が豊富に育ち、ナガラメ、トビウオなどの多様な地魚が獲れ、1年を通して旬の味覚を楽しめます。このほか、黒砂糖や焼酎といった加工品まで、ほとんどの食料が島で揃える食料自給率100%を超える豊かな島です。

アウトドアライフを満喫できる島



エメラルドグリーンの透明な海と白浜や岩礁などの多様な海岸が混在する変化に富んだ地形も魅力です。そのため波質がよく、全国からサーフィンの愛好家が訪れるサーフィンの聖地ですが、釣り、シュノーケリング、ダイビングなどのマリンスポーツも盛んです。眺望の素晴らしい天ヶ倉山といった大自然も身近で、気軽にアウトドアライフが楽しめるのもこの島ならではの魅力です。

高い技術力を持つ島



鉄砲伝来の島としても有名ですが、近年はJAXA種子島宇宙センターの大型ロケット打ち上げにより、「宇宙に一番近い島」としても全国的に知られています。特産品の種子鉄が代表するように砂鉄が大量に採れる種子島は、中世より「たたら製鉄」が行われてきた技術の島であり、戦国時代に作られた国産初の火縄銃製造は、この島の鉄の精錬や鍛冶のすぐれた技術によって成功したとも言われています。

人に優しい移住の島



種子島は古くから移住の島として知られ、その史実は1300年前の歴史書「日本書紀」にも記されています。以来、全国各地から移住者がやってきて文化が受け継がれ、今も多種多様な伝統芸能や祭りが残ります。そうした歴史から多様性を受け入れる風土が根付き、互扶助の精神が育まれています。教育熱心なだけでなく、子育てがしやすい、暮らしやすい環境が整っています。

多くの看護師がスペシャリストとして活躍しています。

島内完結の医療は、種子島医療センターが長年掲げてきた目標です。「しあわせの医療」への想いはスタッフにも受け継がれ、本土に負けない高い技術を身に付けるために自己研鑽を重ねる姿は当センターの特徴のひとつです。看護師たちもまた、よりよい医療を提供しようと切磋琢磨し、より質の高い看護力を求めて知識や技術を磨くことで離島医療を支えています。



診療看護師・副看護部長
竹之内 卓

鹿児島大学病院で外科病棟、ICU、救命救急センターを歴任するうちに、看護師の役割拡大に興味を持ち看護師特定行為研修を受講し、研修指導も行ってまいりました。様々な医療現場を経験する中で、患者様を身体的側面だけでなく、精神的・社会的側面からも包括的に捉え考察する能力の必要性を感じ、診療看護師を目指しました。元々学生時代から離島医療に興味を持っていましたが、種子島医療センターで働くことを決めたのは、超

急性期から慢性期、在宅までの総合医療を提供する役割を持ち、学んだことを役立て、シームレスなケアを提供できると考えたからです。当院には、アルバイトをしながら大学院に通う間、奨学金などの経済的援助だけでなく精神的にも支えて頂き感謝しております。2022年4月に家族で移住したばかりですが、このしあわせの島で、日常の業務に、学ぶことに、楽しみを感じられるスタッフを増やせるよう、一緒に学びたいと思っています。



感染管理認定看護師
下江 理沙

感染症は、ウイルス、細菌、虫など多くの微生物からのものがあります。治療・療養する場をよりよく安全な環境にするためには、日頃の感染対策が重要です。また現場がより安全に仕事ができる環境づくりも大切です。そのために組織横断的な体制の構築に日々取り組んでいます。感染対策は、地域単位で他の医療機関との連携も充実し、解決困難な課題があっても相談や情報交換ができるおかげで乗り越えてこられました。今では色々な方々と顔を合わせた活動がやりがいになっています。万事が来ても慌てずに、落ち着いてできる感染対策の充実が図れるよう今後も励みます。

診療看護師(Nurse Practitioner:NP)とは

医師サイドにたった診療を一定の制限で行える看護師。大学院の修士課程で医学の知識と初期医療に関する教育、実践を修了し、NP資格認定試験に合格した国が認めたスペシャリストです。具体的にはこれまでできなかった呼吸器設定、動脈採血、薬剤調整といった医療行為を、医師の指示あるいは特定行為手順書に沿って行うことができ、医師に近い働きを担います。



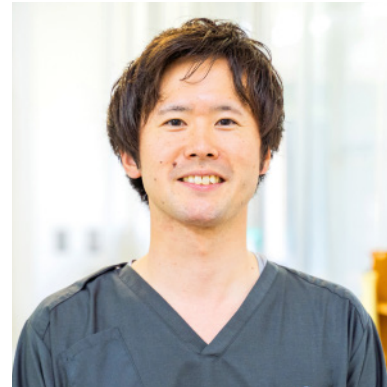
がん化学療法看護認定看護師
山之内 信

抗がん治療で生じる副作用や不安をできるだけ軽減し、安心して納得して治療を受けられるように、医師、薬剤師、リハビリスタッフと連携しながらサポートすることが主な役目です。つらい思いをしているがん患者さんに寄り添い、支援していくには、病院全体の底上げを図る必要があります。がんケアの勉強会や指導、助言を行い、スタッフの知識や技術を向上させることもがん化学療法看護認定看護師としての役割です。治療を終えた患者さんが元気になって会いに来てくれるたびに、この資格を取って良かったと思います。



緩和ケア認定看護師
丸野 嘉行

栄養・水分管理に係る特定行為看護師として専門的なケアががん治療にも有効であることを実感し、緩和ケア認定看護師を目指しました。治療で生じる様々な苦痛の緩和を第一に、緩和チームの力を最大限に発揮させるマネジメント、地域がん診療病院としての教育指導、在宅療養の充実も大切な役割です。目指すのは、「しあわせな人生の最終段階」を迎える人がひとりでも多くなるように、安心して治療ができ、住み慣れた場所で生活できる環境を整え、種子島を「充実した終末期医療が受けられる」場所にすることです。



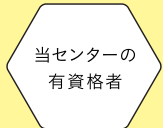
救急看護認定看護師
鈴木 龍

種子島を旅した時、綺麗な海、美味しいご飯、人の優しさに魅了されて移住を決めました。北海道や横浜の総合病院で救急外来やICU・HCUに勤めた経験から、救急医療・救急看護には、「患者さんの途絶えかけた人生の点を、次の線に繋げられる力がある」と考えるようになりました。そのため知識・技術を突き詰め、大好きな種子島の救急医療を支えたいと思ったのが資格取得の理由です。痛みや不安を抱えて受診・搬送される患者さんやご家族へ、適切な医療、思いやりのあるケアを提供していきたいと考えています。



日本消化器内視鏡学会認定
第一種消化器内視鏡技師
荒木 敦

島外へ行かずとも当センターで安心して検査・治療を受けていただくために専門的な知識や技能の必要性を感じ資格を取得しました。当時は島から学会主催の講習会に通い、東京で試験を受けなくてはなりませんでした。費用や勤務調整など病院の支援のおかげで無事に合格できました。当センターでは年間2000件を超える内視鏡検査が行われ、がんの早期発見・早期治療に大きく貢献しています。専門技術を得たことで離島医療に貢献できている実感がわき、看護師としての大きなモチベーションになっています。



当センターの
有資格者

- 診療看護師(ナースプラクティショナー)
- がん化学療法看護認定看護師
- 感染管理認定看護師
- 緩和ケア認定看護師

- 救急看護認定看護師
- 特定行為看護師(栄養・水分管理)
- 特定行為看護師(循環)
- 特定行為看護師(創傷処理関連)

- 日本消化器内視鏡学会認定 第一種消化器内視鏡技師
- 3学会合同呼吸療法認定士
- 終末期ケア専門士



「しあわせを支え続ける離島看護」とは

離島看護と聞いてどのようなイメージを抱きますか。私たちが目指すのは、「患者さんを笑顔にする看護」、そして「自分たちも笑顔になる看護」。それはつまり、患者さんや私たちのクオリティ・オブ・ライフを守ること。次の5つの特徴で「しあわせを支え続ける離島看護」を実践しています。



01 小児から高齢者まで、 ライフステージに応じた 幅広い看護

安心して子どもを産み育て、高齢になっても住み慣れた場所で自分らしく暮らす。その環境を守るため、当センターは26の診療科を揃え、小さな子供から高齢者まで幅広い疾患に対応できる看護体制を整えています。そのため、小児看護や透析看護といった専門性の高い看護までさまざまな経験を積めるうえ、総合的な視点を持った看護力を見つけることができます。



02 急性期から生活期まで、 地域に密着した 切れ目のない看護体制

医療が細分化されている都市部では、急性期から生活期までの看護も分断されがちです。当センターでは、外来、入院はもとより訪問看護とも連携し、急性期から生活期まで一貫した看護体制を整え、退院後もご本人もご家族も安心して暮らせる医療環境を守っています。人と人とのつながりを大切にする地域性を生かしたチーム医療を経験することで看護の幅、人としての幅が広がります。



03 家族の視点に立った 優しい看護と仕事環境

患者さんが安心して治療を受け、療養していただくには、高い看護の知識と技術が必要です。一流の講師陣による講習や実技指導、研修会や勉強会を定期的に行う他、eラーニングなどインターネットを利用した教育システムを導入し、看護力の向上、キャリアアップをサポート。認定看護師資格取得、特定行為研修受講などの資格支援も積極的に行っており、認定看護師や特定行為看護師など、現在11名のスペシャリストが活躍しています。



04 自己研鑽をサポートする 教育環境、資格支援

助け合いの精神が強い土地柄、看護師と患者さんが親しく、患者さんのバックグラウンドや生活状況を考慮し、寄り添った看護ができることは当センターの強みです。また当センターには、親子や兄弟姉妹、夫婦が看護師として勤務する割合が多く、家族の視点に立った温もりと思いやりの看護が根付いています。そのため、仕事においても助け合いの精神が根付いており、働きやすいのも特徴です。



05 クオリティ・オブ・ライフを 重視した生活環境

「クオリティ・オブ・ライフ」を守るという視点は、看護だけでなく、私たち看護師が働く環境、暮らす環境にとっても重要です。共働きやシングルマザー、1ターンなどの島外出身の看護師が多く働く当センターは、「かごしま子育て応援企業」として登録され、24時間の院内保育所など子育てしやすい環境、育児休業、介護休業などの各種福利厚生も充実。「ワーク・ライフ・バランス」を大切にした働き方、それぞれのライフステージに合わせた働き方を選べる環境を整えています。

教育体制

離島看護では地域の特性に配慮した総合的な看護力が必要です。急性期から生活期まで一貫した医療を提供する当センターでは、幅広いオールマイティな看護を身に付けられるよう、新人からベテランまで、キャリアに応じた独自の教育研修プログラムを用意。さらに、院内外の研修や資格取得支援制度を実施し、離島でも主体的に学べる環境とキャリアアップを支援する体制を整えています。

看護部の理念

安全・安心・安楽な質の高い看護を提供します

1. 私たちは、皆様の信頼に応えられる看護を実践します。
2. 私たちは、人権を尊重した心温かな看護を実践します。

教育方針

種子島医療センターの看護部理念・目標を達成するために、看護部一人ひとりが自分の目標を明確にし、やりがいと達成感を味わうとともに、看護師職として成長することを目指します。



教育師長より



教育師長
上妻 智子

私たち種子島医療センター看護部は「共に成長する」を目的とし、兄弟のように、姉妹のように、子供のように、親子のように、家族のように、寄り添い支えあって共に成長できる院内教育を目指しています。この種子島医療センターを選んでくださった新人のみなさんを、少人数教育できめ細かく大切に育て、そして私たちも共に成長したいと考えています。

当センターは、種子島にしながら上を目指せる病院です。認定看護師、専門看護師を目指す人も多く、その情熱と意欲を私たちは応援します。自分次第で道を拓くことができるのが種子島医療であり、ここで携った経験は、必ずやあなたの看護師人生、さらには今後の人生に役立つと信じています。

私たちの大切な島の医療を、先輩たちが支えてきた医療を、自分たちが支え、そしていつか自分たちも支えてもらう。バトンリレーのように「次の世代に“つなぐ医療”」を目指し、たとえこの島を離れたとしても、いつでも帰って来られて、誰もが安心して医療を受けられる種子島医療センターでありたいと思います。

新人教育

チューターがしっかりサポート

新人看護師一人ひとりに2年目以上の看護師がつくチューター制を取り入れています。早く職場になじめるよう年齢の近いチューターが新人ゆえの不安や悩みといった相談に乗り、精神面をサポートします。また部署の全スタッフで情報を共有し、みんなで一緒に成長するという姿勢で新人を育てます。



院内留学など確実に成長できる 新人教育プログラム

業務については教育専任または3年目以上の看護師が担当。新人看護師研修の他、チーム医療に基づいた院内全体での技術演習、認定看護師・特定行為看護師による指導、部署別や老人保健施設で実習を行う院内留学など、着実に知識や技術を身に付け、成長していける指導体制や環境を用意しています。



看護師採用実績校

【鹿児島県】

- 鹿児島大学
- 鹿児島県医療法人協会立看護専門学校
- 鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校
- 鹿児島医療技術専門学校 保健看護学科
- 鹿児島高等看護学院
- 学校法人赤塚学園 タラ看護専門学校
- 久木学園看護専門学校
- 神村学園専修学校
- 公益財団法人慈愛会 鹿児島中央看護専門学校
- 学校法人南学園鹿児島医療福祉専門学校 看護科

【福岡県】

- 折尾愛真高等学校 看護専攻科

【大分県】

- 昭和学園高等学校 看護学科 専門課程
- 大分県立看護科学大学大学院

【沖縄県】

- 沖縄県立看護大学

新人教育年間スケジュール

4月

- 入職時研修
- 院内研修
良肢位、行動制限、排泄、口腔ケア、汎用、MRI検査、介護保険、DPC、介護保険、MRI、看護必要度、記録

5月

- 院内研修
パス、BLS、心電図
- 院内留学

6月

- 院内研修
緩和ケア、麻薬の取り扱い、リスクマネージメント
- 院内留学

7月

- 3ヶ月の振り返り
- 夜勤オリエンテーション
注射、点滴確認
- 院内留学

9月

- 6カ月の振り返り
- 看護記録の個別指導

10月

- 院内留学
- 防火訓練

12月

- 9ヶ月の振り返り
- 看護記録の振り返り

3月

- 1年の振り返り
- 発表会「心に残った看護場面」

キャリア アップ

定期的に看護研究発表会、 勉強会を開催

高度な医療を支える看護の質の向上、看護師としての資質向上のため、定期的に院内看護研究発表会、認定看護師や講師を招いた看護部勉強会を実施。さまざまな視点で実践を振り返り、改善につなげるとともに、どんな状況でも冷静に議論でき、対応する力を養い、自立し社会に貢献できる看護師を育てます。

充実した研修、eラーニングを導入

感染管理、緩和ケア、がんリハビリテーションなど、タイムリーに専門的な知識を学べる院内研修を実施するだけでなく、院外研修への参加も積極的に勧めています。また、病院外や自分の時間で学習できるように、最新の看護知識や技術を学べるeラーニングを導入。主体的に学べるシステムが充実しています。

資格取得支援制度

【奨学金貸付制度】

看護師資格、認定看護師の資格取得を目指す人に、入学金から施設設備費までのすべての費用を負担する奨学金貸付制度。学校卒業後、当センターで4年間業務に従事した場合は奨学金の返済が免除されます。

【研修費補助】

特定行為看護師などさまざまな資格取得については、交通費を含む研修費用の全額を補助しています。



TMCグローラダー

新人ナースからエキスパートナースへ、段階を踏みながら臨床看護実践能力を育成する種子島医療センター独自のTMCグローラダーを導入。2年目以降はそれに沿ってそれぞれの目標に合わせたプログラムを用意しています。

★ ジェネラリスト (臨床実践看護師)

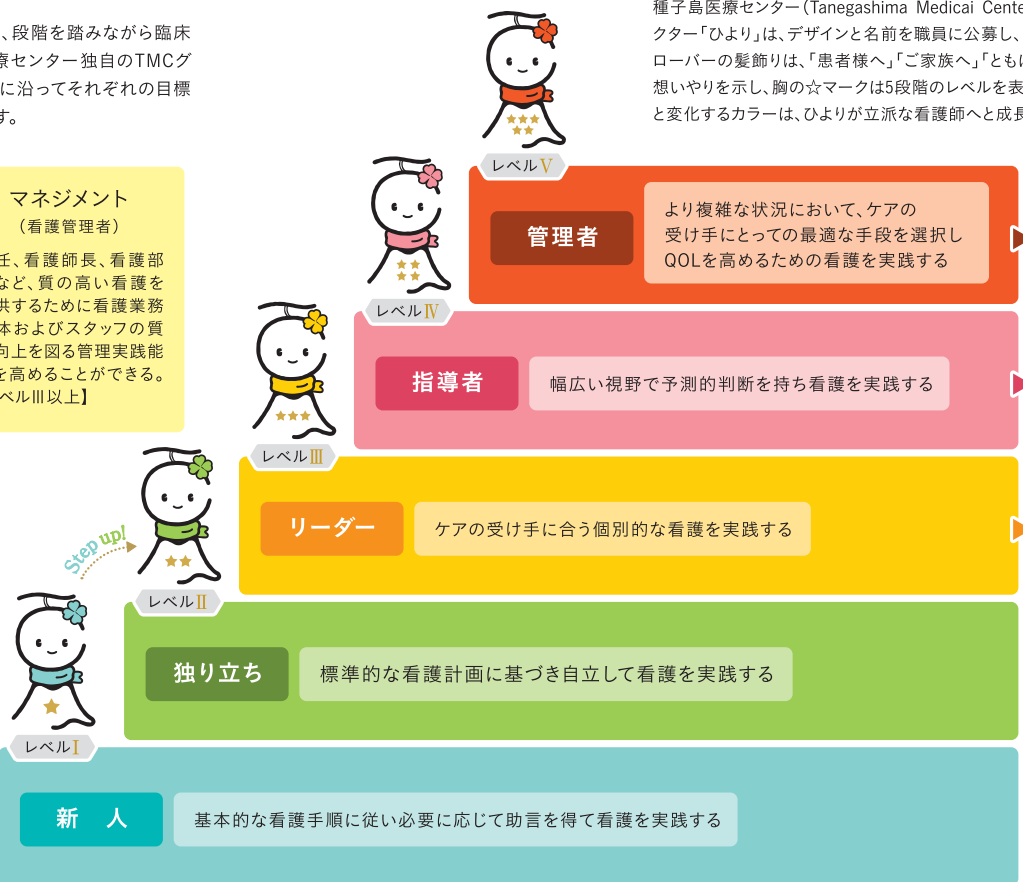
看護の現状を振り返り、効果的なチーム運営の方法を考えることができる。
【レベルⅢ以上】

★ スペシャリスト (専門・認定看護師)

専門分野で卓越した知識やスキルを持ち、特定の分野において専門性を発揮することができる。
【レベルⅣ以上】

★ マネジメント (看護管理者)

主任、看護師長、看護部長など、質の高い看護を提供するために看護業務全体およびスタッフの質的向上を図る管理実践能力を高めることができる。
【レベルⅢ以上】



TMC看護教育キャラクター「ひより」

種子島医療センター (Tanegashima Medical Center) の頭文字をモチーフにした看護教育キャラクター「ひより」は、デザインと名前を職員に公募し、看護部の選考を経て誕生しました。四葉のクローバーの髪飾りは、「患者様へ」「ご家族へ」「ともに働くスタッフへ」「私が暮らすこの場所へ」の思いやりを示し、胸の☆マークは5段階のレベルを表現。青葉から少しずつ温かみを帯びて完熟へと変化するカラーは、ひよりが立派な看護師へと成長していく姿を表しています。

看護実践能力 4つの柱

ニーズをとらえる力

ケアする力

協働する力

意志決定を支える力

部門・病棟紹介

26の診療科目を揃え、救急医療・高度医療から在宅医療まで行う種子島医療センターでは、幅広い看護を実践できるため、目指す看護が見つかります。新人研修では各部署を体験できる院内留学制度を採り入れ、部署の配属には希望を考慮して決定するなど、希望やライフステージに応じたジョブローテーションで看護の幅を広げ、働きやすい環境を提供しています。

病棟



2階病棟

外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻科の急性期の治療後の療養、緊急入院に対応し、がん患者さんの化学療法や緩和ケアにも積極的に関わります。



3階東病棟

(地域包括ケア病棟)

入院後、病状が安定した後、治療の継続やリハビリテーションが必要な方、退院先の調整が必要な方など、診療科に関わらず患者様を幅広く受け入れ、主に在宅復帰を見据えた退院支援を行います。



3階西病棟

内科(主に循環器・呼吸器・消化器)、小児科、眼科の急性期の治療後の療養、緊急入院に対応します。



4階病棟

(回復期リハビリ病棟)

脳血管疾患、骨折などの急性期の治療を終え病状が安定した回復期に、低下したADL能力を再び取り戻し元の状態に近づけるため、集中的にリハビリテーションを行い、在宅・施設復帰を目指します。

病院概要

【許可病床数】204床
2階病棟(外科・整形外科・脳神経外科・耳鼻科<急性期一般病棟>)55床
3階西病棟(内科・小児科・眼科)59床(うち感染症病床2床) 3階東病棟(地域包括ケア病棟)42床
4階病棟(回復期リハビリ病棟)48病棟
【職員数】365名(2022年度現在)
【主な公的認定、病院機能】日本医療機能評価機構認定病院
新型コロナウイルス感染症重点医療機関/へき地医療拠点病院/二次救急指定病院
災害拠点病院/地域がん診療病院/JAXA救急指定病院

手術室



24時間の緊急手術受け入れ体制により年間およそ1000件の手術を行っています。子どもから高齢者まで患者さんの年齢も幅広く、疾患も術式も様々で腹腔鏡手術の件数も増えています。

外来



患者さんが自宅でも安心して療養できるよう、各診療科、多職種が密に連携を図りながら診療を行っています。2次救急を担っている救急外来では24時間、365日すべての救急患者さんを受け入れています。

【診療科目】
内科・総合診療科/循環器内科/消化器内科/神経内科/心療内科/呼吸器内科/血液内科/糖尿病内科
肝臓内科/腎臓内科/ペインクリニック内科/外科/整形外科/消化器外科/肝・胆・膵外科/乳腺外科/脳神経外科
麻酔科/小児科/眼科/リハビリテーション科/耳鼻咽喉科/皮膚科/泌尿器科/放射線科/リウマチ科
【関連施設】社会医療法人 義順顕彰会
田上診療所/介護老人保健施設 わらび苑/居宅介護支援事業所/訪問看護ステーション 野の花
訪問リハビリテーション事業所(種子島医療センター/田上診療所)

透析室



腎臓内科外来や病棟、多職種と連携を図り、慢性腎不全を中心に血液透析など血液浄化療法が必要な外来および入院患者さんの受け入れを行っています。

法人併設施設 訪問看護ステーション「野の花」



併設施設である訪問看護ステーション「野の花」では、患者さんが住み慣れた家で安心して暮らせるようリハビリテーションセンターなどと連携し、訪問看護のサービスを行っています。



種子島医療センター

社会医療法人 義順顕彰会
種子島医療センター

〒891-3198 鹿児島県西之表市西之表7463番地
Tel.0997-22-0960(代) Fax.0997-22-1313

<http://www.tanegashima-mc.jp>
診療時間 9:00～12:30、14:00～17:00 休診 日曜・祝日